

特許工法の**地盤改良**と
確かな技術による**基礎工事**で
「**強い家**」づくりを実現します。



ライフベースキャラクター
“ガイアくん”

社名の由来

～ The origin of a company name ～

LIFE … 関わる人の生活や暮らしの
BASE … 基礎基盤を安全かつ安心なものにする。
建設業界に関わるものとして、関わるその人の生活や暮らしの基礎基盤を、より安全でありかつ安心なものにし、豊かな生活を送ってほしい、という想いを社名に込めたものです。

株式会社ライフベースは平成24年10月24日に創業、今年で設立 13年目となりました。上は60代 下は30代と 幅広い年代の社員が一丸となって活躍しています。土木工事業・基礎工事業・地盤改良事業・農地整備事業を営んでおり、暮らしを守る「基盤(基礎+地盤)」づくりをする会社です。

よく学び、働き、そして楽しむ。何事にも全力で取り組むのがわが社のスタイルです。社員一同、企業理念である「人に愛され、誇れる企業」を目指し、未来のために挑戦し続けます。

Q&Aコーナー

Q:標準貫入試験のN値が10程度の地盤の場合、許容応力度は、一般に、砂質土地盤より粘性土地盤の方が大きい。○か×か!?

次回もお楽しみに～



スクリー・プレス工法 協会だより

Vo.015
2025.6.発行

発行:スクリー・プレス工法協会事務局
TEL:(0766)30-2372
FAX:(0766)30-2566
Email:spassoc.info@cons-hd.co.jp

第 8 回定期総会開催

2025 年 5 月 9 日 (金)

ザ マグナス東京にて、第 8 回定期総会を開催しました。

総会員数 20 社に対し 15 社 (委任状提出 5 社) の出席により審議事項はすべて可決され、滞りなく無事に終了しました。総会後の懇親会では、昨年の施工実績優良企業、工法の発展に貢献いただいた皆様の表彰を行いました。お忙しい中、ご参加いただきました会員の皆様、誠にありがとうございました。

総施工長ランキング 表彰

- 1 **ビルダーズサポート 株式会社** **21,537m**
- 2 **株式会社ライフベース** **13,318m**
- 3 **株式会社 福田テクノ** **10,556m**

営業賞・技術賞 表彰

【 営業賞 】

株式会社 ライフベース 三島 圭史 様

【 技術賞 】

株式会社 eco・カンパニー 竹内 信 様
株式会社 イートン 後藤 弘明 様



対談

スクリー・プレス工法協会発足から6年が経ち、この度3期務めた永井前会長から斎藤会長に引き継がれた。
そのような中で、新旧会長が現状のスクリー・プレス工法の位置づけと取組み、将来の展望と見通しについて語る。

新会長 斎藤 裕 前会長 永井 理之

と思っています。

近頃、当社に限ってですが受注ができてないので、他の会員企業にも負けないように頑張っていたですし、他の会員企業も非住宅の部分の受注を伸ばしていっただけばいいなど。

【永井前会長】
本部に届く施工情報を簡単に分析すると、まだまだ住宅が多いですが、当初よりも少しずつ非住宅が増えてきました。ですが大きく方針を転換している会員企業はまだ少ないと思います。ある一部の企業ぐらいで、あとはほとんどが戸建住宅。この中で、非住宅にシフトしていくことにおいて課題はありますか。

【斎藤会長】
その各々の会員企業が持っている技術力、提案力も大事だと思います。市場が求めているものに対して対応できる企業になっっていないと難しいと思います。

◆工法の強み
【永井前会長】
では、工法の強み、付加価値をどう活かしていくかお聞かせ下さい。

【斎藤会長】
スクリー・プレス工法の付加価値と言えば、他工法にはない最大の支持力が取れること。住宅以外にも採用できる仕事が多いと思っています。また、在来工法以外にはない環境に対しての強みもあります。今後その強みの部分をますます強くしていけると考えています。

【永井前会長】
例えば、支持力が取れることなどが、専用施工機の強みだと思いますが、それによって非住宅や対象建築物が多くなったと思います。今後はそのような対象物に適用できる展開をして、住宅レベルを超えた技術力をどうつけていくか、ですね。

◆課題は技術力
【斎藤会長】
そうですね。今、前会長がおっしゃったその技術力が非常に大事だと思っています。他の企業や他工法も、色々な強みがあるかと思いますが、スクリー・プレス工法の技術力というものはどういったものなのかというのも、再度拾い直さないとけないと思います。その技術力というのは、同品質であることや、誰がしても同じ施工になることだと思います。

【永井前会長】
これは私が考える技術力の見解ですが、例えばスクリー・プレス工法を知っているゼネコンや設計事務所はまだ少ないです。このような知らない工法を採用する時、その分野で特化した技術力のない人が提案に行ったら、その人よりも技術力が低かったら、まず採用されないといい前提が僕はあると思っています。なので、そこを超えた技術力をつけて提案していくこと、これが重要かなと思っています。それは住宅業界の技術力では絶対に成立しないということがありますので、スクリー・プレス工法としては、ここを目指したい。

これをどうやってスクリー・プレス工法協会に展開していくかというのは一つ大きな課題かなと思います。

【斎藤会長】
そうですね。我々、参加している会員企業はある程度施工に特化した会社ですので、他にない市場に対応する技術力などは、工法本部が色々な知識、見解を持って提案して、もらって、ゼネコンや地場の強い建設会社、設計事務所に対して、安心して施工できる工法です。よって、そういうものをトークできるのは工法

本部だとは思っていますので、そういったところに対してバックアップしてってもらいたいなと思っています。

【永井前会長】
はい。工法本部として、代理店の育成という観点も実はあります。例えば技術力が足りないなら、そこに少しバックアップしながら受注に持っていきたい。まだまだできてないところがありますけども、工法本部としてはやりたいと考えています。そして逆にできてないところを工法協会と考えていただきたいなというところはあります。

【斎藤会長】
そうですね。確かに本部だけに頼るのではなくて、会員企業もそういった技術力を上げるためにもっと勉強していかなければいけないですし、また、そういった育成もしなければいけないと思いますので、今後は工法協会としてそのような問題を解決していかなければいけないところでは確かにあります。

◆スクリー・プレス工法協会の将来像
【永井前会長】
次に、スクリー・プレスの将来像について、どういう方向に持っていきたいか。スクリー・プレス工法協会をどういった組織にしていきたいか。工法の将来像と協会の組織像、こういうのを少し展望があれば。

【斎藤会長】
そうですね。展望としましては、会員企業はさらに施工棟数を増やし、他工法には負けない強い企業になっていかなければいけないと思います。今後としては、施工、お客様に喜ばれる工法にしていかなければいけないと思います。それによって、お客様にスクリー・プレス工法を採用してよかったねって言われるような工法にしていくなことが大事だと思います。また、協会としても、先ほど申し上げた課題を一つ一つクリアできるように、今後望んで行きたいと考えているところです。

【永井前会長】
はい。会員企業にはいろんなタイプの会社がありまして、課題はその会社によって違うということがあります。その一つ一つの会員企業の課題をクリアできるかという点、かなり細かい対応がありますので別としても、大きい方針としては何かありますか。

【斎藤会長】

ほんとに大きな方針としましては、とにかくスクリー・プレス工法が、地盤改良業界で一番になる。会員企業も、自分はこのことについては絶対誰にも負けない、それについてはどこよりも強いぞ、というようなところで一番なることを目指していくことです。

【永井前会長】
一目置かれる存在とかそういうことでしょうか。

【斎藤会長】
はい。逆に、永井前会長はこんな組織にしてほしいということがありますでしょうか。

【永井前会長】
やはり先ほどから何回も出てくる技術力。ここを高めて、技術に対して切磋琢磨しながら伸びていく。そんな組織でありたいと思いますね。

【斎藤会長】
確かにそうですね。その思いを引き継ぎながら今後取り組ませていただきます。ありがとうございます。

【永井前会長】
ありがとうございます。



— 完 —

会 員 一 覧

正会員	株式会社 アイ機	株式会社イートン	株式会社eco・カンパニー	株式会社 柿崎工務所
株式会社 ジオック技研	地建興業 株式会社	千代田機電 株式会社	株式会社 中川商店	ビルダーズサポート 株式会社
株式会社 福田テクノ	富士貴建装 株式会社	株式会社 ライフベース		
協力会員	株式会社 シロタ	株式会社 ヒヨシ	株式会社 セーフテック	
賛助会員	一般社団法人 ハウスワランティ	株式会社 GIR	一般社団法人 不動産検査保証機構 レイウス	
特別会員	株式会社 コンステックホールディングス	株式会社グランテック		

Q&A 答え：A
砂質土地盤でN 値が 10 程度以下であれば緩い状態を意味し、同じN 値の粘性土地盤では、非常に硬いしっかりした地盤である。
したがって、N 値が同じ場合、一般に許容応力度は、砂質土地盤より粘性土地盤のほうが大きい。